学 位 論 文 審 査 の 要 旨

		要　　旨
学位申請者	子浦　恵 【人間発達科学専攻　平成23年度生】	本研究は、ケニアの初等教育を事例として、子どもの学力と学習意欲の階層間格差について実証的に示したものである。具体的には、(1) 社会経済的背景が不利な家庭の子どもの学力に影響する要因は何か、(2) 社会経済的背景と親の関与は子どもの学習意欲にどのような影響を与えているのか、２つの課題を検討し、社会経済的背景が不利な子どもの学力と学習意欲向上に効果的な要因を検討した。 その結果、低階層校の平均点には、社会経済背景よりも PTR（教師児童比率）や教員の問題行動、宿題回収率といった学校要因のほうが強い影響を与えていること、都市部と農村部では子どもへの学力への影響要因が異なること、社会経済的背景の影響を考慮しても家庭における親の関与が子どもの学習意欲・学力と有意な関係があることを明らかにした。 第１回審査委員会（平成 30 年 6 月 25 日）では、学力・学習意欲の定義、調査対象地域の文化的・民族的背景、ケニアを対象とすることの意義、理論的背景、ケニアにおける教職の地位、図表の書き方、結果の解釈、本研究の知見のカバーする範囲、政策課題、などについて指摘や疑問が出された。 これらの指摘を踏まえて修正作業が行われ、第 2 回審査委員会（平成 30 年 11 月 27 日）では、指摘事項に対して適切な対処が行われていることが確認された。平成31年1月21日に行われた公開審査会においては、出席者から、親の関与の具体的な内容、親の関与の重要性の伝え方、ケニアにおける家庭教育のありかた、教員の問題行動の内容、教室内での実践に関する文化差、数量化しにくい学校内要因、地域社会と子どもの発達の関係、などに関する質問が出された。これらの質問に対して、いずれも適切な受け答えがなされた。その後に行われた最終審査委員会（平成 31 年 1 月 21 日）では、公開発表と質疑への応答が十分なものであったことが確認された。 以上の結果より、本審査委員会は、本論文が博士（社会科学）、Ph. D. in Educational Development にふさわしいと判断し、合格とした。
論文題目	学力と学習意欲の階層間格差　―ケニアの初等教育を事例として―	
審査委員	（主査）　教授　　浜野　隆	
	准教授　冨士原　紀絵	
	教授　　池田　全之	
	准教授　荒木　美奈子	
	教授　　小松　太郎 （上智大学　総合人間科学部）	
インターネット公表	○　学位論文の全文公表の可否（　可　・　$\boxed{\text{否}}$　）	
	○　「否」の場合の理由 ア．当該論文に立体形状による表現を含む イ．著作権や個人情報に係る制約がある $\boxed{\text{ウ}}$．出版刊行されている、もしくは予定されている エ．学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ．特許の申請がある、もしくは予定されている	
	※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について	